

愛知スキー協通信 No.304

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会 2020年 6月1日
〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801(Fax 共)

e-mail: aichiskikyokai@yahoo.co.jp

http://aichiskykyou.yukigesho.com/



編集：シクラメンスキークラブ
& サザンクロススキークラブ



みなづき 「旧暦の6月は水無月、 今期 最後の月は 皆着きに！」

文責 愛知スキー協理事長・技術部長兼任 寺田 康男
(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

人が集まることができないこの状況下でも教え合える場に皆を巻き込み、スキーが1年通して生活の一部になってこそそのスキー協らしさだと思います。

スキーが出来なくなっただけだからこそ、冷静にあなたにとってのスキーの位置づけを考えられるのではないのでしょうか。役員だけが考える6月にしないでください！皆で7月のスタート台につきましょう！

のぞ 総会に臨んで！

役員で勝手に終わる総会を望まないでください。同じ望みでも、こちらの意味は「遠くからながめる」です。会場には、行かなくても総会には参加意識をもってほしいです。眺めるに止まっていなくてください！

一行メモをクラブ代表の理事に託してください！あなたも、考えて行動して下さい！

あなたのスキー要求の為に、スキー協がしなければいけないものは〇〇〇ですとはっきり宣言してください。レポートと思うと書けません、指摘してもらいたいのです。

スキー協は 来シーズンに何を〇〇〇しますか？ どうすべきですか？

それで、あなたは スキーを楽しんで頂けるのでしょうか？ 続けられますか？

来期に臨みましょう。今までの習慣と棄てられるものは捨てましょう。何もしないのに勝手に望んでいるだけでは、あなたの欲求は叶いません。

要求とその実現は、あなた自身が、考え、語り、賛同者をつくらないとできないものです。あなたのスキー協に今日からしてください！

裏のページに載せたのは、今期の始めに出した8月の通信の内容です。



2019年7月7日曜日 総会 分散会議論の報告

文責 愛知スキー協理事長・技術部長兼任 寺田 康男
(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

総会の中心は今後スキー協がどういう方向に進むべきかを、1.5時間掛けて探り合う分散会でした。「クラブを10倍たのしくする為に」を一人10枚の案をふせんに記入してもらい分散会で分類してからそれぞれに、議論しました。



①「今あるこの楽しさを SNS 等の新しい宣伝媒体を駆使して伝えてほしい。

また、早く、確実に知りたい」…そしたら10倍たのしくなる

寺田は分析します

＝(スキー協の日程確認手段に不慣れな人、及び、

ほしい情報が伝わってこないことに不満が、あるから出てきた要求)と判断します。

スキー協が1年を徹してしなければならないこと。新しい手段と情報を早く正しく伝えてほしい。情報停滞の現状の打破。

②「スキーを続けるための健康な体づくりを習慣付ける」…そしたら10倍たのしくなる

寺田は分析します

＝(生涯スポーツ、スキーを生活の一部に位置付けて生きているタイプ)と思います。

スキー協が1年を徹してしなければならない人づくりの基。交流学習会の参加者に目指してほしいもの。実現の為に具体化。

③「難しいことを実現出来たら」…そしたら10倍たのしくなる

困難をもたのしむと寺田は分析します

＝(自分から積極的に動く、付加しに行く、行動的、幾つか経験済みタイプ)と考えます。

スキー協が目指すべきクラブのありかた像。交流学習会で集める参加者に望むありかた。

ア) スキー+温泉+質の良い食事+何かしらを探し、組み合わせの変革をする。

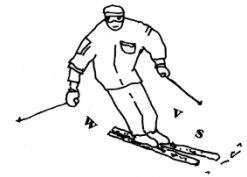
イ) 海外に行くために企画、働きがけをする。(飛行機を使ってまでスキーに)

ウ) (気分が上がる) あたらしい道具を入手する。(気分が上がる)スキー技術を考える。

エ) 新鮮さ、専門分野、技術を追求する。(スキーを前提に、やったことの無い物への挑戦)

・パウダー・深雪・ボード・コブ・ジャンプ・オフピステ・新種目

- ・ 幼児のスキー教室 ・ 誰もがさんかできる競技大会 ・ 指導の内容を工夫する
- オ) 会員を増やし、良い人間関係の量てきに拡大する。
- ・ 異年代、異意見が混合する善さ
- カ) 危険性を察知し、対処することも、楽しむ。
- ・ 冒険心を保ちつつ、危険にたいする対策を練る
 - ・ 危険にたいする抵抗力を養う、体力作りをする



④「らくして、楽しさや時間、限られた労力やお金を無駄にしない環境ができれば」
 ……そしたら10倍たのしくなる

ごく一般的なスキー愛好者集団の数多い声と寺田は分析します。

= (どちらかと言うと他人主導でつくってある良いものを探し出し利用できる、
 器用に生きていける視野の広い上から目線タイプの人) の要求と思えます。

スキー協が拡がる為にしなければならないこと。フェスティバルの参加者の多くの人が望むありかた。

- ア) 良いスキー場、近いスキー場、安いリフト券の入手できるスキー場を選択する。
- イ) 多くのスキーに行く機会にであう。(安くて安全な交通手段での海外も)
- ウ) (気分の揚がる) 充実した教室、マテリアル、指導員、上手くなる手段を選ぶ。
 - ・ ファッション性、ロゴマーク、ウェアやプロテクター、ブランド名
- エ) シニア、ジュニア、レディースの集まる場の情報収集、情報交換をする。
 - ・ 専門分野に深入りする ・ スキー以外も楽しみの視野に ・ スキーが上手くなりたい
- オ) 質のより好い人間関係を求める。(充実重視、今のまま又は今の方向性で)
 - ・ 要求の一致点からして、同年代がキーポイント
- カ) 安全の確保をする。
 - ・ 危険を、しない選択肢の比重が大
 - ・ 危険を排除してもらおう。スキー協から依頼要請をする

上記は、どれも「スキーのたのしさ」をつくる要素です。

意見を更に上乘せ、整理しながら、理事会で掘り下げて引き続き議論してゆきます。

一年をかけて、スキー協の歩む道筋を理事会で分析していきたいと思えます。

クラブでも議論して、その様子を理事に託して理事会に上げてきてください!

各個人の意見があれば直接寺田康男にメール送信ください!

携帯アドレス tera-.ski@docomo.ne.jp

パソコンアド yasuohiromi@mta.biglobe.ne.jp

この部分は、今回 新たに寺田が書き足した、理事長としての考え方 試案・思案・私案です。

今期、以上の内容で10倍楽しくしようと始めました。

1年を経過して、思い出して! 考えて! 行動して!

何が、よくて、何がいけなくて、今後はどうすべきですか?

アルペン競技用語解説 ⑳

アルペン用語解説①に書きましたが、再掲します。

DS (ドントスタート) 何らかの理由でスタートしなかった

DF (ドントフィニッシュ・或いは DNF) 途中転倒や失敗でゴールしなかった。安全確保のためGS以上の大会ではスイッチバック禁止が普通になっています。途中で止まって再スタートする行為です。

DQ (D i s Q u a l i f y) 途中旗門を通らないこと (不通過) に気づかずゴールし失格になったこと

レギュレーション違反で失格する事もあります。大会によって使える用具が決まっています。それに違反したときに起きます。愛知県のインターハイ予選でこの年から企画が変わり板の長さが長くなりました。その長さの板が調達できずに出走し優勝した選手がゴールで長さをチェックされ予選と突破できなかったことがありました。国体予選でもゴールで板の長さをチェックし、違反していると記録なしにするようになりました。予選会でなければ選手が出やすくするためチェックしないことが多いようです。

失格は本人が分かるように公示しなければなりません。レギュレーション違反は必ず本人に理由を説明し確認をします。

今年の全国スキー協の全国大会で本来失格でない選手が失格になりました。DQのため失格なのですが、DQの場合必ずゴールの掲示版に失格理由を明記して掲示をします。「ゼッケン〇〇番、第△旗門両足不通過」と放送で伝えることも決まっています。その後ある一定時間(15分とか)経過すると記録は正式に決まり、公式記録になります。気が付いたのが公式記録の後で後の祭りですが主催者が公示をしっかりしてなかったために置きました。東海ブロックでは必ず本人(もしくはチームの人)に確認してから公式記録にしています。また基本的にフェアプレーの精神で自己申告制です。でも本人が気づかないことも多いので必ず確認し気持ちの良い大会にするようにしています。(文責澤田安利)

山スキー用語解説 ②

山スキーの道具 その1 「アルペンスキーか、テレマークスキーか」

今日、山スキーに使われる用具は一つではない。大きなスタイルとしてはアルペンとテレマークの2種類がある。それぞれに機能の異なるバリエーションがある。コースの特徴、行動形態、個人的な楽しみ方などに応じて最適な用具を使い分けられれば理想的だが、それらを使いこなす技術も変わってくる。

アルペンの用具は広く普及している「山スキー」のことで、いわゆるアルペンスキーに歩行と登行のモードが付け加えられた用具である。アイスバーンや急斜面の登り降りに適し、技術的には普通のアルペンテクニックが使えるので、滑りを中心とした山スキーに適している。

テレマークスキーは踵を固定しないクロスカントリービンディングを使用し、滑降時は独特のテレマーク姿勢で滑る。最近のテレマーク用具はクロスカントリーの軽快な機能に、山岳滑降にも耐える回転機能がプラスされてきている。(文責浅井千恵)

